

2005年8月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球500 hPa 高度は、高緯度では中央シベリア、アイスランド付近で負偏差、ロシア西部、アラスカの北では正偏差が分布した。中緯度では、全体的には正偏差が卓越したが、大西洋からユーラシア大陸にかけては正偏差、負偏差が交互に分布し、波の伝播に伴う波列が見られた。

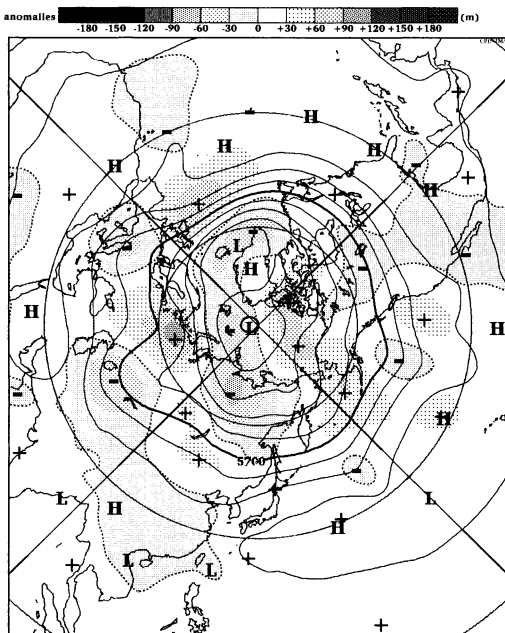
熱帯の対流活動は、フィリピン付近からその東海上にかけて平年より活発で、活発な領域は160°E付近まで広がっていた。また、北太平洋東部から北大西洋の15°W付近にかけて平年より活発だった。一方、インドからベンガル湾にかけては平年より不活発だった。

850 hPa 流線関数および風ベクトルでは、南西諸島から日本付近にかけて高気圧性循環偏差が見られ、傾圧的な鉛直構造が見られた。北太平洋東部からカリブ海付近にかけて低気圧性循環偏差が見られた。赤道域では西部から中部太平洋にかけて東風偏差となった。東部太平洋では西風偏差となり、上層と逆向きの偏差となった。

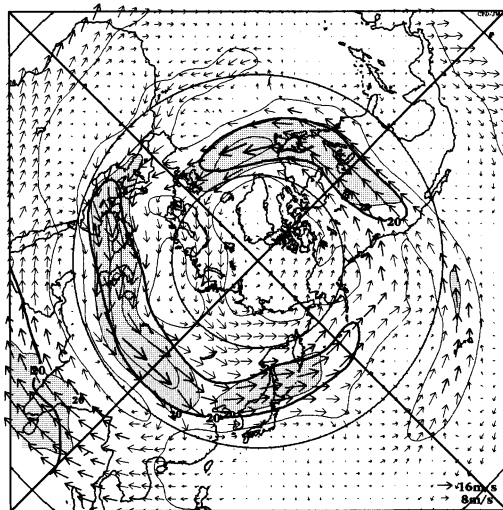
SOI (南方振動指数) は-0.6となった。

世界の天候

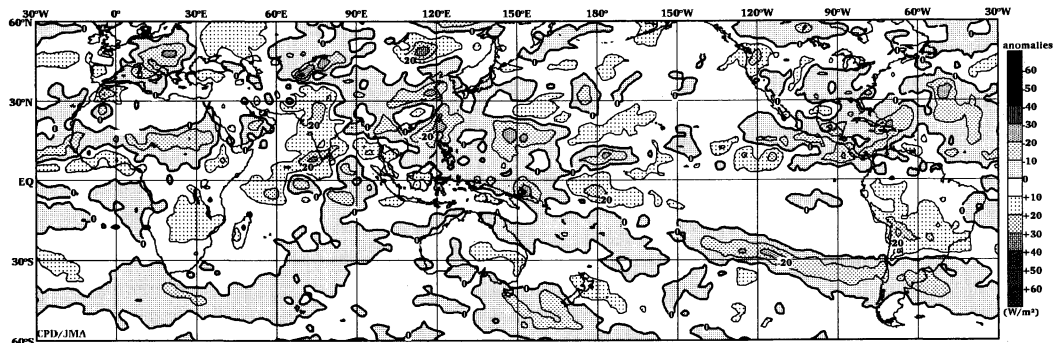
- ① モンゴル東部の高温・少雨
 - ② モンゴル西部から中央アジアの多雨
 - ③ マレー半島からカリマンタン島の高温
 - ④ インド北西部の少雨
 - ⑤ インド南部の高温・少雨
 - ⑥ ロシア北西部からフィンランドの高温
 - ⑦ ヨーロッパ東部から中部の多雨
スイスやオーストリア、ルーマニアなどでは、下旬に大雨や洪水、地滑りにより、40人以上が死亡したと報じられた。
 - ⑧ イランからトルコの高温
 - ⑨ チュニジアからアルジェリアの多雨
 - ⑩ アラスカ東部の少雨
 - ⑪ 米国東部から中部の多雨
29日早朝にルイジアナ州に再上陸したハリケーン「カトリナ」は、上陸時の中心付近の最低気圧が史上3番目の低さ(920 hPa)となり、米国史上最大級の自然災害をもたらした恐れがあると報じられた。
 - ⑫ 米国東部から中米の高温
 - ⑬ ニューゼalandの高温・少雨
 - ⑭ オーストラリア北部・南部の多雨
- (気象庁地球環境・海洋部気候情報課 福山幸生)



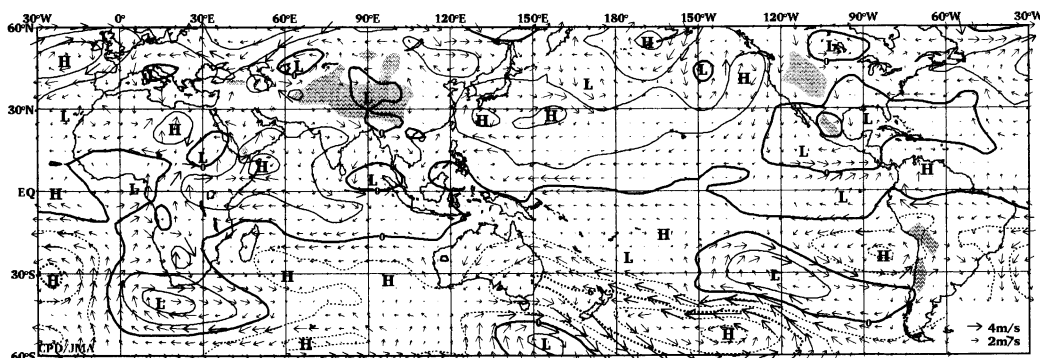
2005年8月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m, 偏差パターン間隔は30 m, 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



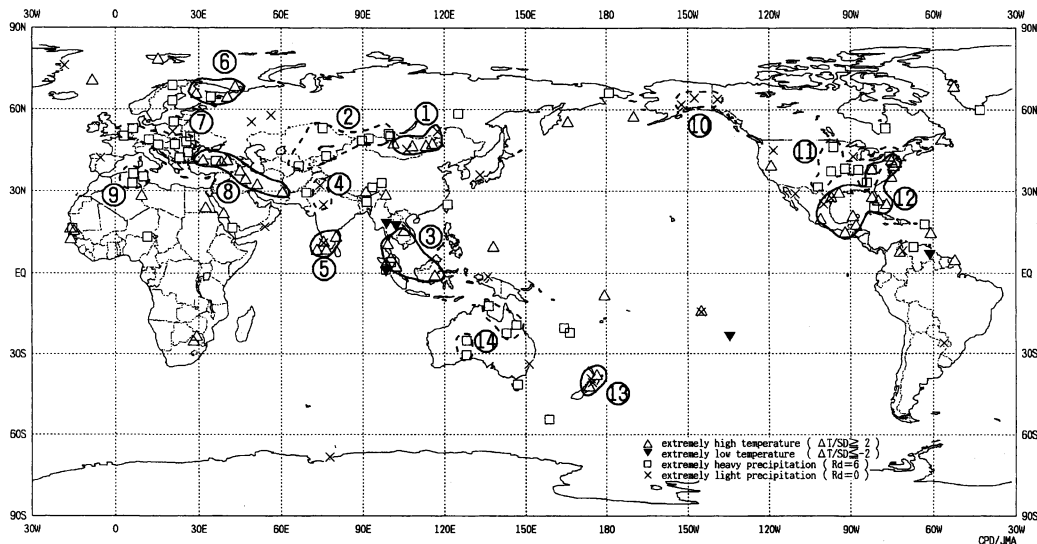
2005年8月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は15 m/s, 陰影部は30 m/s以上, 太実線で囲まれた領域は平年の30 m/s以上の領域を示す, 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



2005年8月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は 10 W/m^2 で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データは CPC/NCEP/NOAA, 平年値は1979~2000年のデータから作成。



2005年8月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。平年値は1979~1993年の ECMWF15年再解析データによる。



2005年8月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の2倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0. 図中の番号は本文中の番号と対応している。